

友人関係における傷つき経験の影響尺度の構成 —信頼性と妥当性の検討—

永井曉行 (中央大学)

キーワード: 友人関係, 青年期, 傷つき経験

目 的

青年にとって友人関係は心理的な安定をもたらすものである (松井, 1990) が, 一方では友人関係の中で青年が傷ついていることも報告されている (Leary et al., 1998; 小田部他, 2009)。傷つくという経験は一般的に好ましくない経験であるが, このような経験の影響は否定的なものだけではなく。否定的な出来事に対して意味づけが行われることによって肯定的な影響の認知に繋がることが指摘されている (Park, 2010)。

友人関係における傷つきの長期的な影響はこれまであまり検討されてこなかった。そこで本研究では傷つき経験の影響を青年がどのように感じているかを測定できる尺度の構成を目的とする。

構成概念妥当性の検討には石川 (2013) の過去のとらえ方尺度と, 堀田・杉江 (2013) の意味づけによる同化・調節尺度を用いる。過去への全般的な態度が肯定的であれば, 傷つき経験についても肯定的に評価されやすく, 否定的であれば傷つき経験の影響も否定的なものとなると予測される。また, 意味づけが積極的に行われることによって, 傷つき経験が肯定的に評価されると予測される。

方 法

調査は 2017 年 4 月～7 月に行った。調査協力者は大学生 319 名 (男性 120 名, 女性 195 名, その他・不明 4 名), であり, 平均年齢は 19.04 歳 ($SD=1.20$) であった。本研究における調査内容は 1.フェイスシート, 2.過去のとらえ方尺度 (石川, 2013), 3.意味づけによる同化・調節尺度 (堀田・杉江, 2013), 4.友人関係における傷つき経験の影響尺度から構成された。

友人関係における傷つき経験の影響尺度は, 予備調査の結果を基に 45 項目を選定した。予備調査では友人関係における過去の傷つき経験と, その経験による変化や影響を自由記述形式によって調査した。予備調査では大学生 47 名から協力を得られた。

結 果

まず, 友人関係における傷つきの影響尺度に因子分析 (最尤法, プロマックス回転) を行った。固有値が 1 以上になること, 単一の因子にのみ因子負荷量が高くなっている ($|.40|$ 以上) 項目を残すことを基準として因子分析を繰り返した。最終的に 6 因子 33 項目にまとまった (Table 1)。

次に, 構成概念妥当性の検討のために, 傷つき

の影響と過去のとらえ方, 意味づけとの相関係数を算出した (Table 2)。

Table1 友人関係における傷つき経験の影響尺度の探索的因子分析(最尤法, プロマックス回転)結果

傷つき経験の引きずり ($\alpha=.88, \omega=.89$)	I	II	III	IV	V	VI
35 この経験思い出すと, モヤモヤした気持ちになる	.91	-.08	.00	.06	.10	-.19
20 ふとしたときにこの経験を思い出して不愉快な気持ちになる	.83	.05	-.04	.12	.00	.01
25 この経験は嫌な思い出として残っている	.76	.04	-.16	.02	-.11	.06
16 今でも切なさや悲しさを感じる	.63	-.10	.19	-.06	-.15	.07
3 この経験を今でも引きずっている	.60	.05	.08	-.07	-.02	.07
30 この経験を忘れることはないと思う	.59	-.13	-.12	-.28	.15	-.01
41 今でもこの経験を思い出して無力感を感じる	.51	.13	.27	.00	.06	-.07
消極的な友人関係への変化 ($\alpha=.86, \omega=.87$)						
23 この経験によって, 友達なんかいないと考えるようになったと思う	-.05	.87	-.06	-.03	-.09	-.02
42 この経験から友達とあまり深く関わりたいと考えるようになったと思う	.02	.85	.00	-.08	.01	.00
32 この経験から友達に自分のことをあお話しなくなってきたと思う	-.16	.61	.12	.07	.14	-.04
39 この経験によって, 人間不信になったと思う	.19	.56	.17	-.09	-.03	.02
27 この経験以降, 友達とおつきあひする人は少なくなったと思う	.10	.55	.13	-.06	.06	-.04
自己価値の低下 ($\alpha=.82, \omega=.86$)						
19 この経験によって, 自分は他人より劣っていると感じるようになったと思う	-.12	.00	.93	.03	.03	.06
14 この経験がきっかけで, 自分に自信を持てなくなったと思う	.02	.09	.77	-.07	.07	.08
5 この経験によって, 自分のことをダサい人間だと考えるようになったと思う	.04	.06	.61	-.02	-.04	.03
36 この経験によって, 自分の中身が空っぽだと感じるようになったと思う	.04	.24	.59	.17	.07	-.03
44 この経験から自分のことを大事にできなくなったと思う	.03	.23	.54	.12	.01	-.09
22 この経験があっても, 自分の価値は下がらないと考えるようになったと思う	-.05	.21	.44	.03	.39	.06
変化や影響の小ささ ($\alpha=.80, \omega=.81$)						
45 自分にとって, この経験は何かの変化をもたらすものではなかったと思う	-.08	.01	.06	.88	-.05	.14
15 この経験以後, 特に変わったものはない	.03	-.17	.03	.74	.01	-.04
37 この経験によって, 何かが変わったとは思わない	-.05	.02	.01	.73	.01	-.02
9 この経験による影響は小さかったと思う	-.22	.00	-.04	.51	.06	-.02
4 この経験があっても, 自分の友達との付き合い方は変わらなかったように思う	.07	-.16	.06	.46	.10	-.14
傷つき経験による成長感 ($\alpha=.77, \omega=.79$)						
24 この経験は自分にとっていい経験になったと思う	-.22	-.18	.24	-.13	.68	-.11
33 この経験から友達とどういよ距離をとれるようになったと思う	-.05	.05	.00	.02	.64	-.02
40 この経験から自分は自分, 他人は他と割り切るようになったと思う	.06	.23	-.17	.19	.63	-.03
2 この経験によって, 視野が広がったと思う	-.01	-.17	.03	-.07	.51	.06
3 人は良くも悪くも変わるものだ, この経験から学べたと思う	.08	.03	.03	-.17	.49	.06
31 この経験に負けたくないと思うようになったと思う	.32	-.09	.00	.06	.47	.12
11 この経験から自分のことを大事にするようになったと思う	-.03	.10	-.15	.08	.44	.18
友人への気遣いの増加 ($\alpha=.78, \omega=.79$)						
38 この経験によって, 前よりも相手を感じる言葉は使わなくなったと思う	-.09	-.03	.00	-.09	.02	.73
21 この経験から友達とからかったりしたときには相手のことを考えるようになったと思う	.01	-.04	-.01	.04	.08	.72
26 この経験によって前より, 友達への嬉しい言葉に気をつけるようになったと思う	.05	-.04	.16	.03	.12	.62

(注) *は逆転項目。因子間相関はTable 2を参照。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
傷つき経験の影響												
(1) 傷つき経験の引きずり												
(2) 消極的な友人関係へ	-.50 ***											
(3) 自己価値の低下	-.59 ***	-.58 ***										
(4) 変化や影響の小ささ	-.42 ***	-.20 ***	-.31 ***									
(5) 傷つき経験による成長感	.14 *	.05	.03	-.22 ***								
(6) 友人への気遣いの増加	.25 ***	.06	.18 ***	-.26 ***	.48 ***							
過去のとらえ方												
(7) 消極的なとらえ	-.05	-.19 ***	-.15 *	-.10	.44 ***	.30 ***						
(8) 否定的態度	.39 ***	.36 ***	.44 ***	-.13 *	-.21 ***	-.03	-.29 ***					
(9) 受容的態度	.01	-.06	-.07	-.06	.41 ***	.29 ***	.75 ***	-.27 ***				
(10) 同化	-.25 ***	-.11	-.16 ***	.23 ***	.13 *	-.06	-.08	-.25 ***	-.16 ***			
(11) 否定的認識	.48 ***	.40 ***	.46 ***	-.24 ***	-.17 ***	-.04	-.25 ***	.83 ***	-.21 ***	-.40 ***		
意味づけ												
(12) 調節	.11	-.02	.11	-.20 ***	.51 ***	.38 ***	.34 ***	-.14 *	.38 ***	.13 *	-.15 *	
(13) 同化	-.09	-.04	-.05	-.01	.49 ***	.24 ***	.20 ***	-.21 ***	.23 ***	.22 ***	-.27 ***	.68 ***

(注) * $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$ 。

考 察

本研究は友人関係における傷つきの影響を測定する尺度の構成を目的とした。

過去を肯定的にとらえているほど, 傷つき経験の影響は対人関係などの成長を促すものとなり, このような傷つき経験の影響は意味づけに積極的であるほど高くなることが明らかになった。また, 過去のとらえ方の否定的な側面は傷つき経験の否定的な影響に関連が見られた。これらの関連は既存の尺度との関係から, 傷つきの影響について予測された結果である。そのため, 本尺度にはある程度の妥当性が確認されたと言える。